

# 令和4年度日本植物病理学会関西部会のお知らせ

令和4年度関西部会開催地委員長 曳地康史

令和4年度日本植物病理学会関西部会を下記のとおり開催致します。万障お繰り合わせの上、奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

## I. 会場と日程

- ・会場：高知会館 〒780-0870 高知県高知市本町 5-6-42 (<https://www.kourituyasuragi.jp/kochi/>)
- ・日程：令和4年9月21日（水）10:30～12:00 総会・部会長講演 <白鳳>  
13:00～17:00 一般講演 <第1～3会場>  
：令和4年9月22日（木）9:00～12:00 一般講演 <第1～3会場>  
情報交換会は行ないません。

## II. 開催地ホームページ

- ・参加登録，発表者登録，講演要旨受付，などは，下記よりお願いいたします。  
<https://va.apollon.nta.co.jp/kansaibukair4/>

## III. 参加受付

- ・期間：令和4年7月1日より開始，締切は9月16日（金）17:00  
締切以降の参加登録はできません（当日受付はありません）。  
なお，新型コロナウイルスの感染対策のため，参加者多数の場合には，予定よりも早めに参加受付を終了する場合があります。
- ・参加費：正会員および非会員 **3,800円**  
：学生会員および学部生会員 **1,800円**  
講演プログラムおよび要旨集は，9月上～中旬までに学会ホームページにて公開し，参加登録者は無料でダウンロードいただけます。  
名札は当日受付にてお渡ししますので，部会参加期間中は必ず携行してください。  
：講演要旨集をご希望の方 1部 **2,000円** より別途ご注文いただけます。  
部会終了後の発送になります。
- ・要領：（株）日本旅行の予約システム Apollon によるオンライン受付を行います。上記アドレスにアクセスし，まず新規利用者登録を行ってください。参加登録は参加者1人ずつ行ってください。お支払方法は，クレジットカード，コンビニ決済，銀行振込からお選びいただけます。

## IV. 発表申込 と講演要旨の作成要領

- ・締切：令和4年8月12日（金）17:00

なお、新型コロナウイルスの感染対策のため、発表申込多数の場合には、予定よりも早めに申込受付を終了する場合があります。

・要領：発表ができるのは日本植物病理学会会員（令和4年度会費納入者）で、1人1題とします。発表希望者は、参加登録のログインページ内の「[講演申込はこちら](#)」から発表者情報および発表申込情報をご登録ください。講演要旨は「[要旨投稿はこちら](#)」からアップロードしてください。締切前であれば、何度でもアップロードが可能で、ファイルは上書きされます。要旨は「講演要旨原稿作成要領」に従ってMS Wordのファイルで作成し、ファイル名を「発表者氏名.docx」としてください。「[III. 参加申込](#)」、「[講演申込](#)」, 「[講演要旨原稿の投稿](#)」をもって発表の申し込みと致します。なお、講演要旨は、座長等による審査の後に「日本植物病理学会報」に掲載されます。

## V. 発表の形式とデータ提出

・発表形式：発表は口頭のみで行います。ポスター発表は行いません。

・口頭発表要領：口頭発表は討論時間を含めて12分程度を予定していますが、演題数によって変更することがあります。発表用ファイルは、前もってWindows版「PowerPoint 2013」で正常に表示されることを必ずご確認ください。ウイルスチェックをお済ませの上、USBメモリーに保存してください。ファイル名はすべて半角英数字で「講演番号-発表者姓.pptx」として下さい（例「001-Ito.pptx」）。発表用ファイルは、部会初日に発表の方は9月21日午前11時までに、2日目に発表の方は午後4時までに、受付にてパソコンにコピーし動作確認をお願いします。お持ちいただいたUSBメモリーはその場で返却致します。なお、サイズが重いファイルはパソコン動作に不具合をきたすことがありますので、なるべく軽いファイルをご準備ください。

## VI. 宿泊と交通

開催地事務局では宿泊・交通等の斡旋を行いませんので、各自で手配をお願い致します。

<会場までのアクセス>

<https://www.kourituyasuragi.jp/kochi/access/>

- ・電車：JR高知駅から路面電車で約15分、県庁前下車・徒歩すぐ
- ・飛行機：JR高知駅から路面電車で約15分、県庁前下車・徒歩すぐ
- ・車：高知ICから約20分
- ・駐車場は当館に隣接しており、利用者には各種割引のサービスがあります。

## VII. 昼食について

昼食は、レストラン（レストラン四季）がご利用できます。周辺には飲食店およびコンビニエンスストアが多数あります。

## VI. 連絡先

- ・令和4年度関西西部会の各種お問い合わせ等は、関西西部会開催地事務局へお願いいたします。

令和4年度日本植物病理学会関西西部会開催地事務局

〒783-8502 高知県南国市物部乙200

高知大学学部農林海洋科学部

TEL : 088-864-5213 (大西浩平 : 開催地幹事)

FAX : 088-864-5109

E-mail : kouheio@kochi-u.ac.jp

## 令和4年度関西西部会講演要旨原稿作成要領（昨年度と同じです）

※講演要旨様式テンプレートファイル（R4Kansai\_form.dotx）が、日本植物病理学会ホームページ<研究集会（2022）—関西西部会（<http://www.ppsj.org/meeting.html>）>からダウンロードできます。

### <全体の大きさ>

- ・和文講演者氏名から所属略称までが、縦 73 mm，横 161 mm の枠に収まるようにする。
- ・1つのファイルに収める講演要旨原稿は1つとすること。

### <ページ設定>

- ・用紙サイズ：A4 用紙，縦方向。
- ・余白：上 15 mm，下 30 mm，左 25 mm，右 25 mm。
- ・文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し，文字数 50，字送り 9 pt，行数 51，行送り 14 pt。

### <配置>

両端揃え（所属略称のみ右端揃え）

### <フォント>

- ・フォントサイズ：すべて 9 pt。
- ・日本語用フォント：平成明朝または MS 明朝（但し和文題目のみ平成角ゴシックまたは MS ゴシック）。
- ・英数字用フォント：Times New Roman。すべて半角。
- ・句読点：「，」「。」
- ・イタリック指定：題目，本文中とも学名などイタリックにする必要があるものはすべてイタリックで表記。

### <和文講演者氏名>

（1行）講演者が複数の場合は中点「・」で区切り，発表者名の前に丸印「○」をつける。所属が異なる場合には，上付き番号「<sup>1</sup>」「<sup>2</sup>」で区別する。

### <和文題目>

（2行以内）フォントは平成角ゴシックまたは MS ゴシックとする。

### <英文講演者名と英文題目>

（2行以内）氏名は，family name，first name initial，middle name initial の順に書き，initialの間にはスペースを空けない。講演者名と英文題目の間は，コロン「:」で区切る。

### <本文>

9行以内で記載する。

### <所属略称>

（1行）括弧「()」に入れ，右端揃えとする。複数の場合は中点「・」で区切り，和文講演者氏名に対応させて上付き番号「<sup>1</sup>」「<sup>2</sup>」をつける。

### <講演要旨原稿の下に，以下の情報を記入>

（1）発表希望分野（「菌類病」，「細菌・ファイトプラズマ病」，「ウイルス・ウイロイド病」，「植物保護」の中から1つ選ぶ）

(2) 発表内容（「分類・同定」、「検出・診断」、「病原体の性状」、「発生生態」、「感染生理」、「病原性・抵抗性」、「防除薬剤・薬剤耐性」、「生物防除・防除法」、「その他」の中から1つ選ぶ）

(3) 対象植物（和名または学名で示す）

(4) 対象微生物（和名または学名で示す）

(5) 原稿送付者の氏名

(6) 原稿送付者の E-mail アドレス

(7) 発表者の学会会員番号（会員番号は封筒の宛名シールに記載されています。令和4年度会費未納の方は、至急会費をお支払いください。）

### 講演要旨原稿の例（本文は9行以内を厳守!）

○内弘貴<sup>1</sup>・木場章範<sup>1</sup>・曳地康史<sup>1</sup>・大西浩平<sup>2</sup>  
**NtrB-NtrC 二成分制御系は青枯病菌の宿主導管内での増殖に必須である**  
Uchi, H., Kiba, A., Hikichi, Y. and Ohnishi, K.: NtrB-NtrC two-component system is necessary for *Ralstonia solanacearum* growth in xylem of host plant.  
青枯病菌のアンモニア利用を制御する二成分制御系 NtrB-NtrC の変異株は宿主に対する病原力が低下することを昨年度の関西部会で報告した。今年度は、病原力低下の要因について詳細な解析を行った。センサーキナーゼ *ntrB* 変異株は宿主植物ナスの細胞間隙では正常に増殖するが導管内では増殖できなかった。アンモニア欠乏時には NtrB によってリン酸化された NtrC がグルタミン合成酵素遺伝子の発現を活性化する。青枯病菌は *ntrB-ntrC* の近傍に位置する *glnA1* と離れた位置にある *glnA2* の2種類のグルタミン合成酵素遺伝子を有している。試験管内最少培地において、*glnA1* の発現のみが *ntrB* 変異株で顕著に減少したことから、NtrC のターゲットは *glnA1* であることが示された。一方、植物体内における *glnA1* の発現は、細胞間隙においては *ntrB* 変異の影響を受けなかったのに対し、導管内では *ntrB* 変異によって顕著に低下した。以上のことから、NtrB-NtrC 二成分制御系変異株は導管内におけるアンモニア欠乏に適応出来ず、増殖できないため病原力が低下していることが示唆された。  
(<sup>1</sup>高知大農・<sup>2</sup>高知大総研セ)

細菌病  
感染生理  
ナス  
*Ralstonia solanacearum*  
曳地康史  
xxxxxx@kochi-u.ac.jp  
xxxxxxx